

# 「オール英語」の新コース開設

## 静岡聖光学院中・高 語学力、国際感覚を強化

静岡市駿河区の静岡聖光学院中・高は2027年度、全ての授業と学級活動などを英語で行うインターナショナルコースを開設する。グローバル社会の進展に合わせ、語学力の向上と国際感覚の育成につなげる。

英語を母語とする外国人教員と日本人教員が、英語の習熟度に合わせて指導する。現在1学年3学級だが、27年度からは4学級に増やし、このうち2学級を同コースにする予定。

海外からも生徒を受け入れ、定員は60人程度を見込む。

コース開設を前に、21年度に国際的な大学入学資格であるケンブリッジAレベルの教育プログラムを導入し、海外大への進学支援も強化してきた。25年度の卒業生、塩沢玲さん(18)＝御前崎市＝は中学生の頃から同プログラムを受講し、水中ドローンを用いて浜名湖のアマモの分布を調査する活動にも注力。同

校からは初めてとなる米カリフォルニア大口サンゼルス校(UCLA)に進学予定で、将来は「途上国などでの人工知能(AI)の普及に向け、消費電力を抑えたAIチップの開発に取り組みたい」と意気込む。

田中潤教頭は「海外大を目指す場合、勉強のほか、探究やボランティアといった課外活動に戦略的に取り組む必要がある。生徒の目標を支えられる体制をつくる」と強調。静岡市のインターナショナルスクール誘致の動きも見据え「互いを認め摩擦を生まない社会の実現と外国人材の静岡定着に向けた教育について、地方の学校のモデルが必要」と話した。

(教育文化部・鈴木明芽)